

混和会とは、共に許し合いながら、他の人格を尊重し、共に生きる和の構築を目指す集いです。

ほとけの 混和会だより

令和二年三月
東光院
仏の混和会
第146号

ブツダは、人は大自然の営みの中で生かされている事を諭された。



大自然の恵み大豆

昨年の五月二十一日、東京都内で開催された国際会議で小池百合子東京都知事は二十五年までに温暖化防止の為に温室効果ガスの排出量を実質ゼロにしますと宣言されました。これは東京都だけでなく世界の様々な国々、又国内では京都大阪の他に十二県が同じようにCO2排出量ゼロ宣言をしておられます。もはや地球は危機的状況下に於かれて居るようです。私も生きることに価値観を大きく見直したいと思うようになって参りました。ブツダの御教えを「法」と言う

文字で表します。この「法」と言う文字は、さんずいの水と去ると言う文字から成り立っており、水は大海原の海水が蒸発して雲となり雨と成って大地に降り注ぎます。その雨は高いところから低いところに流れながら様々な生命を宿し次世代へと命をつなぎ去って行きます。そのあるがままの姿そのままブツダの教えです。よ、その営みから外れて生きることはいつたりともかかないませんよと言ふことで「法」と言う文字で表現されております。人々はこの「法」の元に縄文時代から山や海の恵みをいただき里山を育て、農を営み自然からの恵みを安定した形で得るために集落を形成し、自然に寄り添いながら生きてきました。よって自然の営みに畏敬の念を抱き感謝の思いを捧げて来ました。その営みによる生命は数万年もの間脈々と伝えられて来ましたが、今生命の継承が危ぶまれております。改めて大自然の恵みに感謝の念を捧げ、少しでも自然に優しい生き方が得られるよう勤めたいと存じます。

麴造りにチャレンジ



東光院の「ほとけの菜園」では、皆さんの協力を得ながらそばやジャガイモ、そして大豆などを栽培しております。この大豆で毎年味噌を造り、節分の時に参拝者の皆さんにお持ち帰り頂いております。そして麴も皆で作れないものかとチャレンジをして今年で四年目に成りました。お米の蒸しかげんやら種麴の振り掛けるタイミング、そして発酵させている時間や温度管理の方法、すべて手探り状態ながらも毎年四十キロの麴を作っております。しかし私としては未だに納得出来る麴は出来ておりません。どなたかご指導いただけましたら大変ありがたく存じます。



三輪清浄の布施



慈愛心を施す
慈母観音様

己の仏心を育む方法の一つに「布施」があります。いわゆる己の持っている優しさを万物に分け隔て無く平等に施しをすることであります。この布施とは一切の見返りも感謝も求めない無条件の愛です。よってこの布施は誰のためにするのかと言うと、困っている人の為にするのでも無く己の名声を高めるためにも無く、恩に着せるためにも無く、ただひたすらに、己の仏心を育む為にする布施行であります。誤った布施は災いの元になり非常に危険な行為でおしるしな方向が良いかもしれません。三輪清浄とは、施す人の心と施す物そして施しを受ける人の心、この三つが清浄でなければ成りません。よって真の布施行は大変難しく理解することが困難です。そこで布施の心をわかりやすく実践しやすい方法として「もらってくれてありがとう」と言うことを提唱しております。上記の味噌は、来年の節分にお出ししたいと思っております。もらって頂けたなら大変ありがたく存じます。合掌 亮観拝



日本仏教に登場する仏様を毎号少しずつご紹介。今回は明王部の愛染明王を紹介します。

● 明王部 愛染明王

愛染明王とは、他の仏様とは一風変わった姿と考えを持つ仏様。

サンスクリット語で「ラーガ・ラージャ」といい、「ラーガ」とは赤色・情欲・愛染。「ラージャ」とは王の意味があります。

通常、明王に属する仏様は青い肌をしているのですが、対照的に愛染明王は全身が真っ赤に染まっております。

また、仏教の教えの大半は煩惱や愛といった感情は修行の妨げとなるとされ、それらを捨てる事で悟りを開く道である。と説かれ、明王とは、人々の煩惱を懲らしめ、炎で焼き払い、悟りへ導く教えの化身であるとされています。

しかし愛染明王の教えはその逆で、煩惱や欲望、特に愛欲を無理に消さず、むしろ欲望のエネルギーを悟りへ導くエネルギーに変化させて様々な悩みから救い出す。という教えを説く仏様なのです。

そのため、背面には明王特有の火炎では無く、まん丸な太陽を背負っております。

愛染明王も他の明王同様、インド神話出身で、元々は「カーマデーヴァ」と言う「愛」を司る神様でした。この神様が持つサトウキビで出来た弓と花で出来た矢で射貫かれた者は恋に落ちる。と言う伝説が残されております。

その名残から愛染明王も弓矢を手にしており、こちらは人に正しい道を示す弓矢とされております。この人を導く弓矢持っている事から、戦国時代には軍神として祀られる事が多くありました。

一例と致しまして、09年の大河ドラマ「天地人」でも有名な直江兼続。兼続の兜には「愛」の字が掲げられておりますが、その下には雲の装飾がされております。

兼続が師とした武田信玄が毘沙門天の「毘」を旗印としていた為、兼続は雲に乗った愛染明王が地上に現れる姿を「愛」と雲で現しているのでは無いか。と言われております。

実際には記録が残されていないため真相はわかりませんが、愛染明王の「愛」であったのなら、どのような想いを込め兜に掲げ戦に出ているのか気になりますね。亮澄拝



奈良国立博物館蔵 重要文化財

節分会が行われました



二月三日に東光院境内において節分会が行われました。当日は天候にも恵まれ地元の方をはじめ多くの参拝者にお越し頂きました。

節分では檀信徒の皆さんより沢山の福豆を奉納頂いたり蕎麦や焼き鳥、フランクフルトにおぜんざい、そしてこの日のために栽培してくれた野菜などのご接待がありました。

準備から撤収まで多くの方々善意の御心によって一つの行事が執り行われ、地域行事が少なくなつた今、こうして地元住民や近隣の子供らが楽しむ姿を見られることは誠に有り難いことだと実感しております。

東光院の豆まきには、かつて総代として護寺運営に尽力してくださった故横尾文雄さんが作られた「三毒の鬼」を追い払う的当てがあります。参拝者の方より、この「三毒」とはいったい何なのかご質問がありましたので、今回はこの三毒について少し触れていきます。

「三毒」とは貪・瞋・痴(とん・



境内に出没した三毒の鬼 ボールを投げて鬼退治

じん・ち)の三煩惱を指し、貪欲(とんよく) 必要以上に貪る貪りの心、瞋恚(しんに)は許しを忘れた永遠の怒り、愚痴(ぐち)自己に対する不平不満、この三毒を善の心を最も毒する根本の煩惱だとされています。

身は心に従うとは良く言いますが、かつて天台大師は「三毒は是れ心の病」とおっしゃいました。間違つた欲はやがて身を滅ぼしてしましますが、大切なことは欲を完全に断つことではなく、方向性を見誤らない事なのです。

仏が人々を救済したいと思う心もいわば欲。正しい欲の元に自心を見つめ直して毒を払い、他の為に戻元されるような善に基づいて行動することが慈悲の心に繋がるのだと思います。

亮敬拝